

有害プランクトン情報 (平成27年度 - No. 7)

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトンの調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類や二枚貝などに影響を与えることがありますので、毎月1回「有害プランクトン情報」を発行して出現状況をお知らせします。

【プランクトンの出現状況】

- 調査日 10月 第1回 : 内湾 (8地点) 10/5 内房 (7地点) 10/14
- 10月 第2回 : 内湾 (8地点) 10/19 内房 (7地点) 10/20
- シャットネラ属及びシュードシャットネラ属の有害プランクトンは、すべての調査点で確認されませんでした。
- ヘテロシグマ属の有害プランクトンは、すべての調査点で確認されませんでした。
- 県環境研究センターが9月24日に確認した有害プランクトンのカレニア ミキモトイ(写真1)が、10月5日に内湾北部の3地点(船橋, 羽田沖, 千葉灯標)で0.5~4細胞/mlの密度で確認されました。10月19, 20日は内湾から内房海域のすべての調査点で確認され、内湾北部のアクアライン北が最も多く44細胞/mlでした。

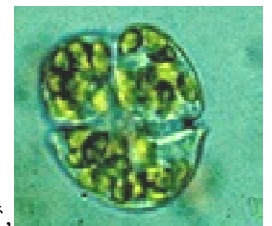


写真1

長さ 0.02~0.04mm

本種の細胞は扁平で、正面からみるとほぼ円形をした小さなプランクトン(20~40 μ m)で、木の葉が舞うように、ヒラヒラと回転しながら素早く泳ぎ、海水1mlあたり数千細胞を超えると魚介類のへい死を引き起こす危険性があります。

また、本種は西日本に広く分布し、海水温が22~27℃になる時期に赤潮を形成することがあります。海水温は現在20~21℃台に低下していますが、冬季にも発生することがあるので、しばらくは注意が必要です。

※ シャットネラ属プランクトンは1細胞/1ml, ヘテロシグマ属プランクトンは1000細胞/1mlの密度を超えた場合に注意報を発行します。

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

10/5	内湾	ケイ藻	<i>Pseudo-nitzschia</i> sp. (図1)
			(シュードニツチアの一種 長さ:0.04~0.07mm)
10/14	内房	ケイ藻	<i>Pseudo-nitzschia</i> sp. (図1)
			(シュードニツチアの一種 長さ:0.04~0.07mm)
10/19	内湾	渦鞭毛藻	<i>Ceratium furca</i> (図2)
			(ケラチウム フルカ 幅:0.03~0.05mm)
10/20	内房	ケイ藻	<i>Cheatoceros pseudocurvisetum</i> (図3)
			(キートケロスの一種 長径:0.01~0.05mm)



図1

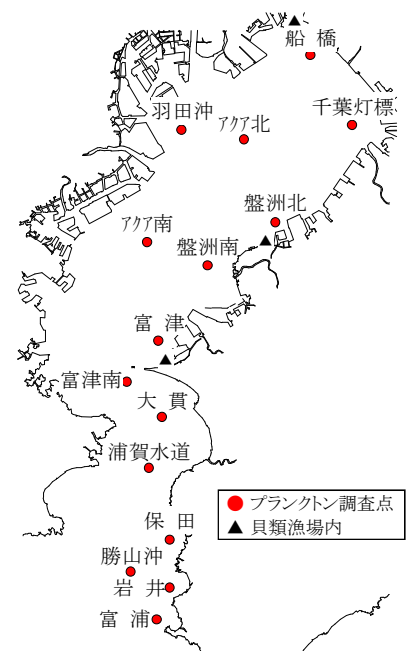


図2



図3

調査地点



● プランクトン調査点
▲ 貝類漁場内

【貝毒プランクトンの状況】

- 調査日 沖 合 : 内湾 (8地点) 10/5
- 麻痺性貝毒及び下痢性貝毒が発生する原因となるプランクトンは、すべての調査点で確認されませんでした。

連絡先：千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所

〒 293-0042 富津市小久保3091

TEL 0439-65-3071

E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp